

# 久留米

# 通高 信専

## 第66号

[MARCH 18, 2011]

久留米工業高等専門学校企画主事室  
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1  
TEL:0942-35-9300  
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校  
校長 上田 孝

## 卒業生に贈る言葉 「ポジティブ・シンキング」

卒業生並びに修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。この晴れの日を迎え、皆さんはマラソンのオリンピック・メダリストである有森裕子さんのように「自分で自分をほめたい」という心境でしょう。ここで大事なことは、自分をほめるのと同時に、今まで自分の高専生活を支えてくださった保護者や家族の方々、友人、先生などへの感謝の気持ちも忘れないことです。社会に出てからも、他者に感謝し、喜びを分かち合うようにすれば、皆さんの人生がより楽しいものになっていくに違いありません。

さて、米国の大学等では卒業式のことをcommencement（コメンズメント）といいます。この言葉には「始まり」「開始」という意味もあります。卒業・修了は、これまでの高専生活に大きな一区切りをつけ、まさに皆さんの人生の新たな始まりです。

平成20年9月のリーマンショック以後の経済不況が長引き、就職氷河期と言われる厳しい状況の中での未知の大海原への船出ですが、心配は要りません。これからの航海に必要な基本的な知識や技術は、本校の課程を通じて、既に十分に身につけています。

皆さんの前途は洋々としています。胸を張って自信をもって進んでください。社会に出てからも、日進月歩の科学技術を自分で学び続け、スキルアップをしていく生涯学習が重要です。

皆さんの航海では、「ひとつなぎの大秘法」を求める少年たちの海洋冒険漫画「ONE PIECE」のように、ログポースと呼ばれるコンパスを持って島々を次々と巡り、目標に向かってまっしぐらに進むこともあるでしょう。あるいはNHKテレビの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のように、行く先は潮まかせの航海になるかも知れません。

どちらの場合でも、行く手には想像を超えた冒険や挑戦がたくさん待ち受けているでしょう。順風満帆の時ばかりでなく、困難に遭遇したり、思い通りに行かず失敗したり、さらには自分の力では

どうしようもできないことに出会うかも知れません。

人生という名の航海においては、如何なるときも「ポジティブ・シンキング」（プラス思考）で、何事も前向きでプラスに考える姿勢が大切です。

中国の故事「塞翁（さいおう）が馬」では、飼馬に逃げられ、その逃げた馬が立派な馬を連れて戻ってきたり、息子が落馬して足を骨折し、骨折したおかげで兵役を免れて命が助かったりしますが、実際に現実の社会でも何が幸いするか分かりません。

企業経営でも「ピンチはチャンス」とよく言われます。ピンチに逃げず、良い機会と捉えて、チャンスに転じることこそ、企業が発展を続けていく上で不可欠な要素です。

もし何かを落として失くしたり、忘れ物をしたりして、あちこち手を尽くして探しても見つからない場合は「厄（やく）落とし」として気持ちを整理することも、普段の生活の中ではよく使われている手法です。"It is no use crying over spilt milk."ですから。

不幸と思えることに出会っても、くよくよしない。むしろ前向きに捉え、できる限りの努力をする。事態を客観的に見つめて、原因や問題点を分析し、轍（てつ）を踏まないように学ぶ。そして、今後同様の場面に遭遇したらどのように対応するかを決めたら、次に向かって気分を新たにします。"Every now is fresh!"なのです。失敗したことにいつまでも囚われていると、マイナス気分ばかり増大してしまいます。

皆さんが、ひょっこりひょうたん島の主題歌にあるとおり、「苦しいこともあるだろさ、悲しいこともあるだろさ、だけどぼくらはくじけない、泣くのはいやだ、わらっちゃおう、進め」の精神で、人生の荒波もポジティブに乗り越えて行かれることを願っています。

## 特集～卒業生のことば～

## 機械工学科卒業にあたって

機械工学科 5年  
森田直樹

はじめに、担任として御教授頂いた、高橋正郎先生、岡本和也先生、石丸良平先生に、大変感謝いたします。特に、3・4・5年生と担任をしていただいた石丸先生には、クラスとして専門分野、就職、進学とも大変お世話になりました。加えて、私たちにここまで御教授して下さった沢山の先生方、ご支援下さいました学生課を始めとする事務の皆様方、本当にありがとうございました。

私は5年間の高専生活のその大半を、高専祭実行委員として過ごしました。1年生の時から実行委員広報部に所属し、引退までの4年間全てを広報部として全うすることができました。入学したての未熟だった私は、先輩方から鍛え上げられ大きく成長することができました。そして、高学年になるにつれ増えていく素敵な後輩に喜びを感じることができました。私はこれまでに無いと言えるほどの時間を実行委員に費やし、そこから多くのことを学びました。

さて、最後となった今年の高専祭は、今まで実行委員に力を注いできた部分を機械科に恩返ししなければいけないと考えていたことから、5年生として体育祭の看板製作に励み、殺陣の道具作りに徹しました。忙しく充実した日々を過ごすことができ、非常に嬉しく感じています。体育祭での審査の結果、看板は3位となりましたが、機械工学科は6年連続総合優勝を果たし、私は来年のV7に想いを馳せています。

卒業する今になって、入学当初に先生がおっしゃっていた、「青春の多感な時期の大部分を高専で過ごすということは、高校、大学よりも、深い人間関係が形成できる」ということを、身をもって痛感します。後輩の皆さんには残る高専生活を、勉強に、部活に、趣味に、有意義に過ごして頂きたいと、心から願っています。



## 卒業によせて

電気電子工学科 5年  
屋並陽仁

近頃ガラパゴスという用語が何かと流行りですね。ガラパゴス化、ガラケー等。なんでも日本国内で特殊な進化を遂げたものを指す言葉なんだとか。その点、高専は良い意味でガラパゴスと呼ぶにふさわしい学校だと思います。一貫教育、あまりに個性的な先生方、同様に個性的な学生。どれをとっても他にない。

特に久留米高専は全国高専の中でも自由な空気で満たされた素敵空間と評判のようで、他高専生と話をすると羨しがられることもしばしばでした。奇抜さ日本一を地で行っているとさえなくもないですがそれはそれとして。

この自由さは無論アウトローな人間のためでなく、奇人変人がコンプレックスなくのびのびと羽を伸ばすためにあるのだろうと思います。そして何より酔狂な少数の人々を生暖かく見守る、乗らないまでも引かないような大多数の普通人たちが高専独特の空気を支えているのでしょう。おかげで平日の学内を一目見渡すだけでもそこかしこに妙なモノを作ったり面白いことをしている方(※学生に限らず)がいらっします。

私はと言うと、そんな「逸般人」の皆様のご不可思議で痛快な姿を尊敬の眼差しで見守る側として5年間を過ごしました。もう少し何か思いきったことをやってみてもよかったような気がしてなりません。それでも私は一久留米高専生として高専を満喫することが出来て本当に幸せでしたし、高専で過ごしたこの5年間を自慢に思います。卒業する者としては、何かの拍子にユーモラスな人々が萎縮してしまわないか、この素晴らしくも脆い空気がいつか融けてしまわないかが気がかりですが、昨年の高専祭を見る限り杞憂に終わることでしょう。

さて、来年度も高専生な皆様方におかれましては、知的好奇心を遺憾なく発揮し、健康と成績に気をつけつつ、今時大学生ですら無くしてしまった学生らしい日々というものを、ひとつ 大いに楽しんでいただきたいなと思います。一人でも多くの方が表彰もされず成績通知にも反映されないような無駄に洗練された無駄のない無駄な活動に励まれますよう、そして私の大好きだった高専の空気がいつまでもそこにありますようお願いしつつ卒業生の言葉とさせていただきます。5年間本当にありがとうございました。

## 特集～卒業生のことば～

## 高専での生活を振り返って

制御情報工学科 5年  
光岡 遼

今だからこそ言えることですが、私は入学したころ高専が好きではありませんでした。友人が高専に行きたいと言っていたので何となく自分も行きたいと思い、そしてその友人が高専入試に失敗して自分一人が高専に行くことになりました。周りには知らない人ばかり。そして高専の独特の雰囲気。なかなか馴染めず、三年生になったら辞めて大学に行こうかとも考えていました。

転機は一年生の後期でした。クラスメイトに誘われて、プログラミングコンテスト同好会に入りました。その当時、前に所属していた部活に馴染めず辞めたばかりだったのであまり乗り気ではなかったのですが熱心な勧誘に折れて、また辞めてしまうのではないかと不安ではありましたが入ることにしました。そして、ベタな話ではありますが、そこで今まで話したことのなかったクラスメイトや上級生と話しをしたり、一緒に活動をしたりすることで仲良くなり、高専での居場所が出来ました。そうなると思えば不思議なもので、今まで好きではなかった高専の雰囲気にも馴染み、馴染んだことによってまた新しい友人もできました。もし普通の高校に入っていたらどうなっていたか、というのは当然知ることはできませんが、五年経って振り返ってみるとここで得たものは多く、高専に入ってよかったと今なら言えます。そして今そう言えるのは、やはり学校での生活を楽しめたからでしょう。

三月には私たち五年生は卒業し、四月に新生が入ってきます。新生にとっては新しいコミュニティによる生活。きっと私のように馴染めずに苦労する人も出てくると思います。そんな人たちは在校生の皆さんが居場所を作ってあげてください。そして在校生の皆さんも卒業する時には名残惜しい、もっと居たいと思えるような生活を送りましょう。せっかく五年間もある高専での生活、16歳から20歳というエネルギーあふれる時期、楽しまないのはもったいないですから。



## 卒業の言葉

生物応用化学科 5年  
松尾翔平

驚くべきことに卒業である。あっという間の五年間であった。楽しいことがたくさんあった五年間であった。だが心残りもいろいろある。

ということなので在校生にアドバイス（まあ、五年間での自分の反省点も踏まえながら）でもしようと思う。だが、そもそもこのページ読む高専生とかいるのか？

## ○ 勉強をしよう

3年、4年とかが大変です。留年の危機にさらされる（というか実際に落ちた）友人たちもたくさん見てきました。せめて試験前だけでも真面目にやりましょう。また進学を考えているヒトは、日頃からちゃんとやっておいた方がいいです。特に英語。編入試験を受けるっていうのにTOEIC350点だったときは泣きそうになりました。みなさんは真似しないでください。それと強く言いたいのは、日本語を含む一般常識をきちんと身に付けておくこと。いろんなところで困ります。現にこの原稿書くのに日本語力が不足して困る困る。

## ○ 友人を作ろう

高専にはいろんな種類の人々がいます。尊敬に値する傑物から、何やらよくわからない人まで幅広く。また技術の高専、専門的知識に特化した人もたくさんいます。部活に入ったり、実行委員会やったり積極的に他学科の人とも交流をしているんなひとと仲良くなりましょう。先生と仲良くなるのもアリです。とりあえず、パソコン強い友人がいると助かります。誰かお友達になってください。

## ○ 食事処を開拓しよう

久留米界限は食事するのにとても恵まれており、質・量・価格三拍子がそろったお店が随所にあります。特に車での移動が可能になったら、正八郎だけでなくいろんなところに行きましょう。個人的なオススメは、怪しさ漂う鳥栖のインドカレー屋、某サハラです。

## ○ ただやっぱり

一番言いたいことは、高専生活は短いということです。みなさんは後悔の無いようにしてください。高専生よ、謳歌せよ！！

## 私の高専生活

材料工学科 5年  
池上麻子

私たちはもうすぐ5年目の3月を迎えます。時が過ぎるのは本当に早いもので、この5年を振り返ってみるといろいろなことがありました。憧れだった高専に入り、緊張しながらも自由な校風を楽しんだ1年生。少しずつ慣れてきた学校生活で怠けることも増えてきた2年生。専門教科が一気に増え、テストで苦しんだ3年生。高専ならではの工場見学旅行などの行事を通して皆との距離が縮まったのが4年生でした。この時インターンシップという貴重な体験もすることができました。他の高専生と交わりながら、高専の専門性を強く感じました。そして現在。研究室に入り、先生や先輩など更にいる人との関わりが増えました。高専祭では最後ということもあり看板の製作や出店の準備などに今まで以上にに関わり、皆で協力して作り上げたという達成感を味わうことができ、一段とクラスの仲も深まったと思います。

しかし、楽しいこと以上に、悩んだり、苦しかった時間も多く、時には高専に入ったことを後悔したこともありました。高校の友人がいろいろな進路に進む為に頑張っている姿を見て自分はこれでいいのかと思悩むことがありました。でもこの5年間の高専生活は私にいろんなものを与えてくれました。整った施設で様々な実験や実習ができることや高専独自のインターンシップに行けることなどの社会へ向けての貴重な体験ができるというもの、専門性の高い先生方に巡り合えたこと、そして私にとって一番大きかったものは多くの仲間が得られたことです。どんなに辛い時も高専生活を乗り越えることができたのは多くの友人たちや先輩、先生方の支えがあったからです。また、どんな時も見守ってくれていた家族には本当に感謝しています。

これから経験していく社会は、きっと想像できないくらい厳しいと思います。ただ、どんなに厳しい状況になっても、これまで私を支えてくれた人たちのことを忘れず、何事にもチャレンジしていく心を持ち続けたいと思います。

## 修了生の言葉：「ナナンカン」

機械・電気システム工学専攻 2年  
石橋一樹

「ナナンカン」。私にとってこの「ナナンカン」は、ただの数字ではなく、しっかりと意味を持った言葉です。私のような人も多いと思いますが、地元の中学校からたった一人で久留米高専に入学した私にとって、それほど長く濃い学生生活でした。

本科での「ゴネンカン」は、クラブ活動に最も力を入れて過ごしていたように思います。当初は友だち作りのために入部したクラブ活動ですが、卒業までの「ゴネンカン」で誇れるものをなにか残したいと思い、引退するまで弓道に一生懸命に打ち込みました。いろいろな大会や試合に責任のある立場で出た結果、自分なりに誇れる賞や功績を得ることができました。

また、先輩方と一緒に旅行へいったり、冬の小春日和に幾人かで弓道場の陽のあたる縁側でまどろんだり、テストの終わった日に友人と走って映画を観に行ったりというような、誰かと一緒に楽しく過ごした何気ない日々がありました。この日々の思い出は社会に出たときに、たくさんの人と一緒に世の中を盛り上げ、楽しい日々を過ごすための自信になってくれると思います。

また、専攻科の「ニネンカン」も面白い授業や体験をできる機会があって、とても充実していました。会社の合同説明会や商工会議所の就活セミナーに参加して大学生や企業の方といろいろな話をし、情報を交換したことは、本科の「ゴネンカン」ではできなかったことです。これらの経験は社会に出て行く上で一つの自信となりました。就職活動もなかなか楽なものではありませんでしたが、希望する業種の会社から無事に内定をいただくことができました。

4月からは社会人になります。なにができるかはわかりませんが、これまで支えてくれた両親に、自分を取り巻いているみなさんに、内定をいただいた会社に、恩返しのつもりで頑張っていきたいと思っています。この「ナナンカン」で出会うことのできたすべてのみなさんに感謝の心をこめて。ありがとうございました。これからもどうか末永くよろしくお願いします。

## 特集～卒業生のことば～

## 向き不向きよりも前向きに

物質工学専攻 2年  
井上麻美

『実験がたくさんやりたい。』そう思って高専を選んだ時から8年が経ちます。私はこれまでの人生の約3分の1を高専で過ごしました。

その間勉学に励む一方、野球部マネージャー、モデスト親善大使での海外研修、ブラジル留学、アルバイト、高専祭実行委員、大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト全国大会出場、久留米市青少年育成事業への参加、シンガポールでの海外インターンシップと挑戦したいと思った事にはほぼ全て挑戦してきました。その中でも専攻科での一番の思い出は研究や授業でハードスケジュールの中、友達と2人でビジネスプランコンテストのプレゼンを徹夜で作成し、そのまま授業へ行った事です。その結果、九州大会ではグランプリを獲得し、今までにない達成感を味わうと同時に『起業』という目標を持つことができました。

様々な分野での活動を通じて、国籍、学校や年齢を問わず多くの人と関わりを持つことで自分と向き合う事もでき、多くの刺激を受け、今の自分へ繋がられたように感じています。

これから高専生活を楽しむ後輩の皆さん、在学中の自由時間を利用して学外や海外に出てみてください。同年代で起業している人や世界で活躍している人がたくさんいます。様々な人を見ていい刺激を受け、自分自身を活性化する絶好の機会になると思います。

今すべきことは今しかできないこと（友達の言葉より）です。何か新しい事に挑戦しようとする時に障害物はたくさんあります。しかしピンチはチャンス、それらを一緒に乗り越えてくれる友達や協力してくれる先生達が高専にはたくさんいます。自分の限界を自分で設けることなくチャレンジし続ける人生を私は歩みたいと思います。

このように高専生活を謳歌できたのは、いつも的確なアドバイスをくれる先生方や一緒にチャレンジし支えてくれる友達、そして見守ってくれた家族がいたからです。本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



## 特集～退職教職員からのことば～



## 退職にあたって

生物応用化学科 教授  
森 哲夫

昭和63年から23年間、久留米高専に勤務させていただきました。久留米高専赴任の最初の年に担任をした工業化学科3年生の野球部員から熱心に頼まれて高野連監督となりましたが、機械工学科・電気工学科・金属工学科所属の部員たちもみんないわゆる野球少年達で、やりがいがありました。夏の甲子園大会の福岡県南部大会4回戦では東福岡高校に勝ち、県大会出場を果たしたことは楽しい思い出です。

毎年、希望に胸を膨らませた初々しい1年生が5～7年間の勉強・クラブ活動・卒業研究などの高専生活で大きく成長し、社会人として卒業していくのを見守ることができたことが一番の喜びです。最後に担任をした生物応用化学科のクラスでは、1年次入学した同級生は一人も進路変更・退学することなく全員が卒業しています。ほんとにうれしいことです。

卒業後の同窓会に20年間連続して参加させていただいているクラスがありますし、私が学生の就職のために関西や関東地区の会社を訪問した際には、本校卒業生から会社の説明や工場の案内をしていただくことも多いです。また、地元企業に就職した方とは共同研究を通して繋がりが残り交流が続いています。このような高専卒業生の企業等での活躍ぶりを知ることは本当にうれしいことであり、高専制度の重要性、存在意義を確信しております。

私はゴムの製造法に関する研究を続けてきましたが、ともに研究に取り組んだ教職員の方々や研究室の学生の皆さんに心から感謝いたしております。その研究成果を国内の学会だけでなく海外で発表する経験もさせていただき、高専からの支援にお礼申し上げます。九州大学、佐世保高専、久留米高専での41年間の教員生活は、家族、教職員の皆様のサポートがあったからこそ出来たと感謝いたしております。今後はあと少しの間、ゴム関連の学会活動を続けたいと思っております。

今後の久留米高専のますますの発展を願っております。

## 特集～退職教職員からのことば～



## 定年退職にあたって

一般文科 教授  
東島光雄

昭和58年に本校に赴任して、本年3月の定年退職まで28年間在職しました。

思えば、工学部修士課程と文学部修士課程と二つを出たのは、5年間の機械設計の実務経験から、「技術とは何か」を考えようと、哲学科に学士入学しました。

この経歴から、技術教育を旨とする「高専」に迎えていただけたのは、幸いでした。選択科目ではありましたが、「技術哲学」という科目の中で、自分の考えてきた「技術とは何か」を学生たちに伝えることができました。

また学生相談室の開設当初から数年、学生相談の仕事に携わりましたが、生きにくい世の中になったことを実感しました。ただ、学生相談室関係者には守秘義務があって、情報共有に関してジレンマがあります。むしろ積極的に関係者になっていただく、関係者に自分のほうから加わることで、情報共有を図るべきだったかもしれません。

最後に図書館の仕事をしました。早く図書館の改修が始まることを願ってやみません。

学生みなさんには、私の大学時代の恩師が座右の銘にしていた言葉「継続は力なり」をおくります。

長い間、お世話になりました。ありがとうございました。心より感謝申し上げます。



## 退職のことば

電気電子工学科 准教授  
高松政利

私の久留米工業高等専門学校との関わりは、学生、教員勤務期間を併せると44年になります。この度、本年3月で退職を迎えることになりました。これもひとえに多くの先生方、事務の方のご指導、ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

思い起こしますと、昭和36年久留米工業短期大学付属工業高等学校電気科に入学し、昭和39年久留米工業高等専門学校電気工学科4年次に編入学、昭和41年3月に第1期生として卒業しました。卒業後、久留米大学に6年間勤務し、最後の1年間は、九州で初めての電算機の夜間校「電子計算機学院福岡校」に通って勉強しました。

この勉強が幸いして、昭和47年5月久留米工業高等専門学校電気工学科の技官に採用され、母校で働くようになりました。昭和48年に電算機が設置され、電算室勤務を経て、昭和49年電気工学科助手、昭和58年講師、平成2年助教授（准教授）へと昇任し、現在に至ります。

この間、技術の進歩は、目を見張るものがあり、集積回路、パソコン、インターネット、携帯電話など、私の場合は「生涯学習」でありました。

クラブ指導では、合気道、空手部を受け持ち、自ら稽古に励み、共に三段に列せられ、仕事が趣味と楽しく過ごせました。学校行事の早朝寒稽古は良い思い出です。他に、第2回プログラミングコンテスト（平成3年）、第5回ロボットコンテスト（平成4年電気工学科初参加、九州大会優勝、全国大会ベスト8）の指導は、記憶に鮮明に残っています。

学生の皆さん、仕事に遊びに頑張ってください。私は多くの人に助けられました。周りの人を大切にしてください。

「久留米工業高等専門学校」の益々の発展を祈ります。ありがとうございました。

## インターンシップを終えて

物質工学専攻  
2年 手島裕貴



私が今回インターンシップで御世話になったのは、独立行政法人産業総合研究所つくばセンター 太陽光発電研究センター 有機新材料チームです。ここでは主に有機薄膜太陽電池や色素増感型太陽電池の研究を行っています。私は二ヶ月間、色素増感型太陽電池を指向した有機色素の合成及びセル作製・評価について研修を受けました。研修中、産総研職員をはじめ大学院生の方々にご指導頂きました。測定後は議論が白熱することも多々あり、新しいことを学ぶ反面、今まで学んだ知識や技術の中で修正しなければならない点もたくさんありました。初めはかなり落ち込みましたが、「技術は日々進歩していくもの」で、最先端の研究には付き物だと教わり、自分の甘さに気付きました。その後は、分からないことがあったら誰彼なしにすぐ聞いて情報をかき集めました。その中で自分の答えを出して再度議論すると、理解がかなり深まることを実感しました。ただ教わるだけの受身で研究所に来てしまったことをこの時後悔しました。

産総研以外にも、物質材料研究所やその他企業の方々とお話する機会があり、同じ研究でも違ったアプローチの仕方があることや、効率upのためのちょっとした実験の工夫など、普段学校では聞けない研究者・企業ならではの話を聞かせて頂きました。このような機会もできるだけ自分で作らなければと反省しました。

後悔や反省ばかりではなくて、楽しかったこともたくさんあります。夕飯を食べに行くためだけに先輩と20分くらい必死に自転車を漕いだり、スカイツリーをなぜか浅草から眺めたり、あとは産総研に纏わるあまり大きな声では言えない都市伝説を聞いたり…。

大学院入学を控えた今、今回のインターンシップを経て、新しい場所での研究・勉学に対する心構えが出来たと思います。つながりを増やして知識や技術を広げることで、自らの可能性も広がることを学びました。産総研職員をはじめ、御世話になったすべての方に、深く感謝致します。ありがとうございました。

## パテントコンテストに入賞して

機械・電気システム工学専攻  
1年 山田直樹

専攻科では、1年前期に創造工学実験という授業があります。創造工学実験は、それぞれの学生が今までにない機能・効果を持つ装置を発案し、これを決められた予算と本科で学んだ知識により製作するという授業です。私はこの授業で、今までにない新しいすりおろし方を実現する「根菜おろし器」を製作しました。また、創造工学実験と同時期に、産業財産権特論という主に特許について学ぶ授業があります。この授業でパテントコンテストというものの存在を知り、創造工学実験で製作した装置の機構を発明という形で応募しました。パテントコンテストとは、特許庁等が主催する学生の発明奨励を目的としたコンテストで、これに入賞すると、特許申請に必要な費用を国が負担してくれます。今回私はこのコンテストに入賞することができましたが、入賞したからといって特許取得が確約されている訳ではありません。これから様々な書類作成や手続きを行い、厳正な審査に合格することで、晴れて特許として認められます。そのため、特許取得はまだまだ先のことであり、審査に合格できなければ特許が取得できないというケースもあります。しかし、特許を持つということは、学生にとって大きな強みであり、自信にもつながることなので、必ず取得できるように頑張りたいと思います。私はこの経験を通して、多くのことを学ぶことができました。そして、これからさらに多くのことを経験していきたいと考えています。このコンテストで、久留米高専の学生は数年1人程度の割合で入賞していますが、毎年多数の入賞者が出るように、後輩達が頑張ってくれることを願っています。



平成23年度 学年 曆

前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	金	1	日	1	水	1	金	1	月	1	木
	春季休業(～4/6)										前期授業再開
2	土	2	月	2	木	2	土	2	火	2	金
			水曜日の授業								
3	日	3	火	3	金	3	日	3	水	3	土
			憲法記念日								
4	月	4	水	4	土	4	月	4	木	4	日
			みどりの日								
5	火	5	木	5	日	5	火	5	金	5	月
	開寮(10:00)		子供の日								
6	水	6	金	6	月	6	水	6	土	6	火
	入学式				中間試験(～6/10)*						
7	木	7	土	7	火	7	木	7	日	7	水
	始業式、オリエンテーション、クラス写真撮 影、4・5年・専攻科健康診断										全校集会(13:00～)
8	金	8	日	8	水	8	金	8	月	8	木
	前期授業開始						本科、専攻科授業なし				
9	土	9	月	9	木	9	土	9	火	9	金
							九州沖縄地区高専体育大会(夏季)				
10	日	10	火	10	金	10	日	10	水	10	土
11	月	11	水	11	土	11	月	11	木	11	日
			午後クラスマッチ(本科午後授業なし)*				専攻科入学試験(前期)				
12	火	12	木	12	日	12	火	12	金	12	月
			クラスマッチ(本科授業なし)*								
13	水	13	金	13	月	13	水	13	土	13	火
	1～3年定期健康診断(午後)										前期定期試験(～9/22、7日間)
14	木	14	土	14	火	14	木	14	日	14	水
15	金	15	日	15	水	15	金	15	月	15	木
							本科、専攻科授業なし				
16	土	16	月	16	木	16	土	16	火	16	金
	TOEIC検定試験						九州沖縄地区高専体育大会(夏季)				専攻科研究論文発表会
17	日	17	火	17	金	17	日	17	水	17	土
									久留米高専一日体験入学		
18	月	18	水	18	土	18	月	18	木	18	日
	開校記念日		学生大会(予定)				海の日				
19	火	19	木	19	日	19	火	19	金	19	月
											敬老の日
20	水	20	金	20	月	20	水	20	土	20	火
									全国高専体育大会		
21	木	21	土	21	火	21	木	21	日	21	水
			後援会総会・保護者懇談会								
22	金	22	日	22	水	22	金	22	月	22	木
	1年生合宿研修(4/22.23)										
23	土	23	月	23	木	23	土	23	火	23	金
							夏季休業(～8/31)、閉寮(14:00)				秋分の日
24	日	24	火	24	金	24	日	24	水	24	土
							音楽祭(予定)				学校説明会(佐賀、予定)
25	月	25	水	25	土	25	月	25	木	25	日
			防災総合訓練								
26	火	26	木	26	日	26	火	26	金	26	月
											工場見学旅行(4年) 補講・再試験期間(9/26～9/30)
27	水	27	金	27	月	27	水	27	土	27	火
28	木	28	土	28	火	28	木	28	日	28	水
29	金	29	日	29	水	29	金	29	月	29	木
	昭和の日										
30	土	30	月	30	木	30	土	30	火	30	金
31	日	31	火			31	日				
									閉寮(10:00)		
春季休業(4/1～4/6) 始業式日に新入生は数学診断テスト 13日午後:授業なし、午前:午後の授業 新入生合宿研修を受講時数として取扱う (不足分は特別教育期間等に実施) 車両通学講習会を実施する(日時未定)		*専攻科平常授業 クラスマッチの開催日時は学生会と協議		音楽祭の開催日時は学生会と協議 *専攻科平常授業		夏期休業(7/23～8/31) 九州沖縄地区高専体育大会(夏季) 8日、15日 授業休業 西日本地区高専弓道大会(未定) 西日本地区高専空手道大会(未定) 一日体験入学前中学校訪問(6/20～7/8)		8/20～9/4 全国高専体育大会		9月に中学校訪問を実施する	